

A 語句と読み

- (1) まみ (ゆ) /×「みる」。「お目にかかる」の意
- (2) 力を合わせる
- (3) 自分では思いもしなかった /「意ふ」=思う
- (4) そうでなければ /「不者」=しからずんば
- (5) 次ぐ。準ずる /父に次ぐほど敬う人、だから亜父
- (6) しばしば／たびたび /×「かず」
- (7) 目くばせする。合図を送る
- (8) こと /×「人」。「～すること三度」

B 句法

- (9) 使役 /「AをしてBせしむ」=AにBさせる
- (10) 將軍と私とを仲たがいさせている /「卻」=すきま・仲たがい
- (11) 反語 /「何を以てか～ん」=どうして～だろうか、い

や～ない

- (12) まさに～んとす／再読文字 /今にも～しようとする
- (13) 受身 /「AのBする所と為る」=AにBされる

C 主語

- (14) 沛公（劉邦）
- (15) 項王（項羽）。籍は項羽の名
- (16) 項王（項羽）
- (17) 項伯

D 口語訳

- (18) 小人の言葉が、將軍と私とを仲たがいさせているのです。
- (19) この籍が、どうしてこんなことをするだろうか、いや、しない。
- (20) 項王は黙ったままで、応じなかった。
- (21) お前たちは皆、今にも捕虜にされてしまうだろう。

E 内容・記述（解答例）

- (22) 最も格上の東を主人の項王が占め、客の沛公は下位の北に座らされており、力関係の差が表れている。(四十五字→短縮可)
- (23) 玉玦を示して、項王に沛公を殺す決断をするよう三度うながした。(二十九字)
- (24) 沛公の弁明を信じ、また情にもろく、むごいことができない性格だったから。
- (25) 項王が承知しない以上、主君の面前で自分が手を下すわけにいかず、剣の舞にみせかけて殺させようとしたから。
- (26) 決断できるかどうかの差。項王はためらい、沛公を討つ好機を逃してしまった。(三十五字)

【現代語訳（全文）】

沛公は翌朝、百余騎を従えて、項王にお目にかかろうとやって来て、鴻門に着き、わびて言った。「私は將軍と力を合わせて秦を攻めました。將軍は黄河の北で戦い、私は黄河の南で戦いました。しかし自分では思いもしませんでした、先に関中に入つて秦を破り、またここで將軍にお目にかかれようとは。今、つまらぬ者の言葉があつて、將軍と私とを仲たがいさせているのです。」

項王は言った。「それは沛公の左司馬、曹無傷が言ったのだ。そうでなければ、この籍（＝私）がどうしてこんなことをするだろうか、いや、しない。」

項王はその日そのまま沛公を引きとめて、いっしょに酒を飲んだ。項王と項伯は東を向いて座り、亜父は南を向いて座った。――亜父とは范増のことである。――沛公は北を向いて座り、張良は西を向いて控えた。

范増はたびたび項王に目くばせをし、腰につけていた玉玦を持ち上げて項王に示すこと三度。項王は黙ったままで応じなかった。

范増は立って外に出ると項莊を呼び、言った。「君王は人柄がむごいことのできない方だ。お前が入って進み出て長寿を祝い、祝い終わったら、剣を持って舞わせてほしいと願い出て、そのついでに沛公を座席で討つて、殺してしまえ。そうしなければ、お前たちは皆、今にも捕虜にされてしまうだろう。」

項莊はそこで入って祝いを述べた。祝い終わって言った。「君王は沛公とお飲みですが、軍中には楽しみとするものはありません。どうか剣を持って舞わせてください。」項王は「よろしい。」と言った。項莊は剣を抜いて立ち上がり舞った。項伯もまた剣を抜いて立ち上がって舞い、いつも自分の身で沛公をおおいかばった。項莊は討つことができなかった。